

平成26年度 MieMu の活動と運営の内部評価・外部評価結果の概要
計画期間（3年）：平成26年度～平成28年度

内部評価結果（概要）

- ・開館初年度で、11本の企画展を実施したことや開館前後の大規模広報により、幅広い層の展示観覧者とともに、年度後半には、一定のリピータを確保することができた。展示観覧者アンケートを通じて、展示等に満足いただくとともに、館のビジョンである「三重の特徴と素晴らしさに気づいて」もらえたことが、確認できた。また、MieMu を県内で広く認知していただくことができた。
- ・一方で、極めて多くの企画展を開催したことや利用者対応にかかる運営面の課題が多かったことから、それらの対応等に館全体の経営資源の内、極めて多くを配分せざるを得なくなり、地域を対象とする総合研究などに時間を割く事ができず、一部の事業における低い実施実績や低い満足度の要因になった。次年度以降、無理のない適正な事業数の設定や人員配置体制、準備期間を設けるなど、本評価制度が有効に機能するよう努める必要がある。
- ・なお、企業との連携については、1名の専任職員を配置し、全職員が担当企業を決め対応してきたことで、連携事業25件の実施や賛助金収入約7千万円を得るなど、企業の支援を獲得して、ともに活動できたことは、県による直営状況にあっては、高く評価できる。

外部評価結果（概要）

- ・開館初年度に多数の企画展を実施し、幅広い層の観覧者とリピーター、また多数の協働企業を確保できたことは、三重県総合博物館の活動の発展と運営の安定化にとって貢献し得る経営資源の増大という観点から、大きな成果であると考ええる。
- ・内部評価の結果に関して概ね妥当と考える。
- ・ただし、戦術9及び戦略6に関しては、内部評価結果と異なり、戦術9「活動への参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します」はミュージアム・パートナー事業を充分実施していると考え、評価結果を「3」から「4」に上げた。
- ・また、戦略6「経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します」は、経営資源を効果的に配分できていない様子が見えたとことから、初年度なので「評価できず」とした評価を「1」とした。
- ・なお現評価制度については、運営の根幹部分を戦略・戦術にして評価しているが、館全体の雰囲気など利用者の視点での戦略・戦術がなく、その評価がないのが課題である。